

安全性への選択

所謂「自然食品」や「生薬」が静かなブームを呼び、いささか行き過ぎの声さえ聞かれる程となったが、化学合成品に対する現代人の意識が不信と不安に変わりつゝある証であろうか。

天然物代替の化学製品普及による豊かさを享受しながら、一方において「天然自然」のレッテルに憧れるのも一概に身勝手とのみ責められぬ人間の心情なのであろう。

化学製品の安全性については、我々日本人持前の性急さ、潔べき性から結論を急ぐ傾向無きにしも非ず、また分析機器の発達に伴う微量検出技術の進歩も、こうした傾向と結びついて徒らに化学製品の安全性に対する不安感を助長しているといった事例もあるやに聞いている。早い話、農業にした処が、農業の生産財として専ら自然環境への直接投入、散布の形をとるが故に一般国民へのイメージは「環境汚染」へと短絡しがちなのかも知れない。

安全性に対する冷静な科学的判断の必要を説くことは大切だが、我々化学工業に携わる者としては、有限な環境容量の中での消費の絶対量増加がもたらす不安や現実の問題解決に、我々が持てる技術の粋を集めて、後手に廻らぬ対策努力を続ける必要がある。

因みに我国の全耕地面積は、現在約550万haというが、過去10年間に50万haも減少している。これに対する農薬の全国使用量は同じ10年間に大凡60%も増加している勘定である。

我国では既に残留性農薬の規制が実施されて久しいが、更に竿頭一步を進めて、速分解非残留型農薬の開発志向が強いのも、こうした背景と無縁ではない。

目次 (第10巻第11号)

昭和51年度春夏作野菜・花き関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要(2)……	2
<農林省野菜試験場 西 貞夫>	
Ⅳ. 野菜対象生育調節剤……	2
Ⅴ. 野菜対象生育調節資材……	7
Ⅵ. 花き対象生育調節剤……	8
Ⅶ. 前回末検討生育調節剤……	11
昭和51年度水稻作関係除草剤試験成績概要……	12
昭和51年度畑作関係除草剤試験成績概要……	31
昭和51年度水稻・畑作関係生育調節剤試験成績概要……	35
<財団法人 日本植物調節剤研究協会>	
水田の多年生雑草発生面積一覧表……	39
植調協会だより……	40

そもそも必要食糧の60%を海外に依存している我国の冷厳な現実を受け止めるならば、国民は一も二もなく「無農薬」のCMにとびつく前に、まず農薬使用の経済性と、同時に安全性向上のコストに思いを致し、食糧の安定供給確保のためには、これからの農薬は如何にあるべきかを真剣に考えるのが筋道であろう。

安全性の確保が生産者の務めであるとすれば、そのコストが受益者たる国民の選択と負担にかかっていることも当然であろう。

例えば、速分解・非残留型農薬の開発が、消費者たる国民の安全性志向に応えるものであれば、国民の選択こそ此の様な農薬の開発、普及促進の鍵と言えるのではなからうか。

(日本化薬株式会社農薬事業部長 鳥越 毅)